（第３種郵便物認可）

経済学び 社会見る目を

熊本市でモデル授業 教師らあり方探る

学校現場での「経済教育」に取り組む教師や研究者らが十五日、熊本市の熊本学園大と同付属高校でワークショップを開き、モデル授業や講演を通じて「専門用語が多く、分かりやすい指導が難しい」とされる経済教育のあり方を探った。

研究者らでつくる「経済教育ネットワーク」（代表・篠原総一同志社大教授）と県高校教育研究会地歴・公民部会（会長・大畑誠也熊本聾学校長）主催。

同ネットワークは二〇〇六年に設立。モデル授業案の開発や教師を対象にした研修会などを手掛けている。ワークショップはこれまで東京、大阪を中心に開き、九州では初めて。県内の公私立高の教師ら約五十人が参加した。

同付属高でモデル授業があり、一年生の「現代社会」を、弘前大の猪瀬武則教授が担当。「マンションの耐震改修に必要な一時金を支払うかどうか」についてのグループ討議を手掛かりに、国民共通の利益を守るために、道路や公共サービスなどの「公共財」を提供する政府の役割を解説した。

続いて講演した篠原代表は、「社会の仕組みと働きを理解し、よりよい社会の条件を考える目を持つ人材育成が経済教育の目的。十八歳から選挙権を与える法改正も検討されており、高校生までに身に付けさせておく必要がある」と強調した。

（森紀子）

▲モデル授業で、「マンションの耐震改修一時金を払うかどうか」を議論する高校生＝熊本市の熊本学園大付属高

認知症の介護 想像力持って

城南町で研修会

認知症介護のフォローアップ研修が十六日、下益城郡城南町の火の君総合文化センターに県内の介護従事者約六百人が参加してあり、愛知県一宮市立病院今伊勢分院診療部長の水野裕さんが「パーソン・センタード・ケア」について講演した。県主催。

「パーソン・センタード・ケア」とは、被介護者の「尊厳の保持」「自立支援」を実現するため、被介護者を中心にケアをすること。水野さんは、国内の同ケア認定基礎トレーナー第一号。

水野さんは同ケアについて「個別ケアをすればよいなどと誤解されている点が多い」と指摘。認知症の人には「自分らしさ」「くつろぎ」「愛情」

就農希望者に 体験のススメ

熊本市で講演会

都市住民の帰農支援などを手掛けるNPO法人阿蘇エコファーマーズセンター（木之内均理事長）が十五日夜、熊本市手取本町の県民交流館「パレア」で帰農講習会「農業せんね！ アグリにチャレンジ」を開いた。田舎暮らしを希望する若者や中高年に、就農に向けた心構えや手順などをアドバイスした。

阿蘇市波野への就農者